

公益財団法人横浜市国際交流協会  
YOKOHAMA ASSOCIATION FOR INTERNATIONAL  
COMMUNICATIONS AND EXCHANGES(YOKE)

# 事業案内 2020

2020年7月発行

# 日本人、外国につながる人とともに 「多文化共生のまちづくり」

公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）は、外国人が暮らしやすく社会参画しやすいまちづくりに向け、「多文化共生のまちづくりを支援する事業」「グローバル人材の育成を支援する事業」「国際協力・国際交流に関する施設を管理運営する事業」を市民とともに進めている横浜市の外郭団体です。

## データで見る横浜市の外国人

### 横浜市の外国人人口

104,928人

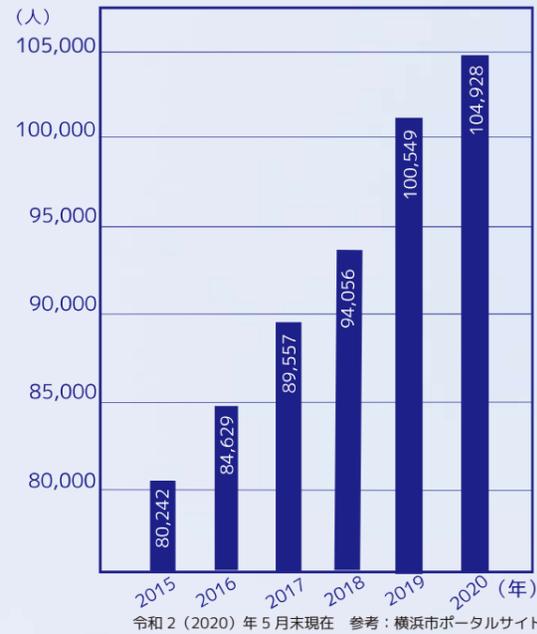
約160か国・地域の人々が暮らしています。  
横浜市の人口の約2.7%が外国人です。

< 国籍・地域別 人数上位10か国・地域 >

1位	中国	41,784人
2位	韓国	12,870人
3位	ベトナム	9,080人
4位	フィリピン	8,539人
5位	ネパール	4,322人
6位	インド	3,121人
7位	台湾	2,844人
8位	ブラジル	2,788人
9位	米国	2,691人
10位	タイ	1,668人

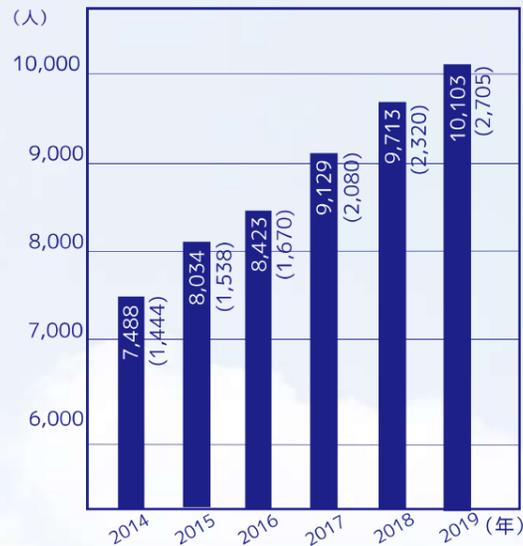
令和2（2020）年5月末現在 参考：横浜市ポータルサイト

### 横浜市の外国人人口推移

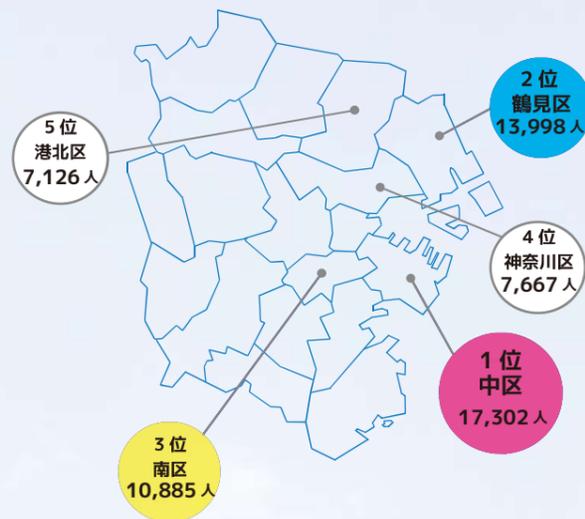


### 外国籍および外国につながる子どもたち

横浜市立小・中・義務教育学校に在籍している児童生徒数の推移  
( )は、日本語指導が必要な生徒数



### 外国人人口が多い区上位5区



## 国際化に向けた横浜市の取組

### 横浜市国際戦略

検索

横浜市の国際事業を戦略的に展開し、横浜の成長につなげていくために全庁的に共有すべき考え方を定めた「横浜市国際戦略」を策定しました。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/org/kokusai/sonota/guideline.html>

### 横浜市多文化共生まちづくり指針

検索

横浜市では、平成28年2月に策定した「横浜市国際戦略」の実現に向けて、戦略の重点的な取組事項の一つである「多文化共生による創造的社会の実現」を具体化していくため、新たに「横浜市多文化共生まちづくり指針」を策定しました。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/kokusai/kyosei/machishishin.html>

### 横浜市中期4か年計画 2018～2021

検索

戦略5『未来を創る多様な人づくり』の中で、誰もが自分らしく活躍できる社会の実現・多文化共生の推進を掲げています。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/hoshin/4kanen/2018-2021/chuki2018-.html>

### 横浜市多言語広報指針

検索

横浜市は、平成22年（2010）7月に「横浜多言語広報指針」を制定し、外国人市民等に対して、横浜市が情報提供を行う基準を定めています。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/koho/kikaku/guideline.html>

### 横浜市の国際平和施策について

検索

平成30年（2018年）6月に制定された「横浜市国際平和の推進に関する条例」を踏まえて、海外諸都市や国際機関等との連携・協力を通じて、市民の皆様の平和で安心な生活と、国際平和の実現に向けて取り組んでいきます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/kokusai/peace/peace.html>

### やさしい日本語での情報発信について

検索

横浜市にはおよそ160以上の国と地域から9万7千人を超える外国人が暮らし、「多言語広報指針」で定める外国語3言語以外を母語とする外国人の方には「やさしい日本語」での情報発信を行うことが有効であると考えられます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/lang/residents/ej/daiji/kijun.html>

### 国際交流ラウンジ

検索

横浜市では、市内在住の外国人のための生活情報提供、相談を多言語で実施するとともに、日本語教室の開催、通訳ボランティアの派遣、日本人との交流活動などを行うため、国際交流ラウンジを設置しています。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/kokusai/kyosei/internationalounge.html>

### 日本語支援拠点施設「ひまわり」

検索

横浜市は、来日したばかりの児童生徒やその保護者への支援のため、「日本語支援拠点施設」を平成29（2017）年9月に開設しました。

## 横浜市外国人意識調査から

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/kokusai/kyosei/fr-chosa01.html>

### 外国人が困っていることや心配なこと

1位	日本語の不自由さ	29.8%
2位	病気になった時の対応・病院で外国語が通じない	19.3%
3位	自分または家族の健康	14.7%
4位	災害時・緊急時の対応	14.6%
5位	子どもの教育	14.5%

### 外国人がやってみたいと思う地域活動

1位	日本に来たばかりの外国人の支援	36.7%
2位	言葉を教える	32.4%
3位	通訳・翻訳をする	31.0%
4位	外国の文化や習慣を教える	21.7%
5位	地域のイベントを企画する・手伝う	21.5%

### 外国人にとって暮らしやすいまちにするために必要な取組

1位	在住外国人に対する支援体制の充実・強化	49.7%
2位	外国人が日本語や日本文化を学ぶ機会を充実させる	45.3%
3位	外国語での相談体制を充実させる	43.0%
4位	外国人の子育てや子どもの教育を支援する	40.6%
5位	日本人の異文化理解を進める	33.7%

### 「多文化共生のまちづくりについて日本人住民に望むこと」への設問へ「おおいに望む」と答えた割合

1位	外国の文化・生活習慣を理解するようにつとめる	37.2%
2位	日頃から外国人の住民と言葉をかかわす	26.5%
3位	日本語・日本の習慣を外国人住民に紹介する	34.0%
4位	外国語を習得するよう努める	23.0%
5位	地域の外国人の住民との交流会など、国際交流の行事に参加する	26.6%

参考：令和元（2019）年度横浜市外国人意識調査

# YOKE 中期構想 (2018 ~ 2021 年度)

日本人と外国人とが、対等な関係を築きながら、一人ひとりが自分のできることで地域と関わり、ともに暮らすまちづくりを進めます。そのために必要なコーディネートや場づくりを通して、地域のなかにたくさんの架け橋をつくっていくことが YOKE の役割です。

## YOKE が重点をおく取組

### 1. 多文化共生のまちづくり推進

「多様性が活かされる地域のコミュニティづくり」

- 重点取組 1 外国人の生活基盤の支援
- 重点取組 2 外国人の地域とのつながり強化
- 重点取組 3 外国人の活躍促進
- 重点取組 4 外国人材の誘致・定着

### 2. 未来を創る多様な人づくり

「誰もが安心して豊かに暮らす世界」を目指す若者の育成

- 重点取組 5 学校と連携した「多文化共生の取組」「地球規模の課題への取組」の学びの促進

### 3. 組織運営・財政基盤の強化

- 重点取組 6 持続性のある人員確保、職員の能力開発・育成、収益向上の取組

## 多文化共生のまちづくりを支援する事業

### 1. 在住外国人の自立支援事業

- (1) 横浜市多文化共生総合相談センターの運営事業
- (2) 地域日本語教室の総合的な体制づくり推進事業
- (3) 日本語学習コーディネート事業
- (4) 国際交流ラウンジ連携事業
- (5) 多言語情報発信事業
- (6) 多言語サポーター派遣・紹介事業
- (7) 外国につながる子ども・若者支援事業
- (8) 介護分野の外国人留学生等の生活相談事業
- (9) 国際交流情報提供事業
- (10) 外国人の災害時対応事業
- (11) 国際交流ラウンジ運営事業 なか国際交流ラウンジ、みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ、鶴見国際交流ラウンジ

### 2. グローバル人材育成を支援する事業

- (1) 地球市民プログラム事業
- (2) 国際協力・交流プラットフォーム事業

## 国際協力・交流に関する施設を管理運営する事業

1. 国際協力センター運営事業
2. 横浜市国際学生会館運営事業

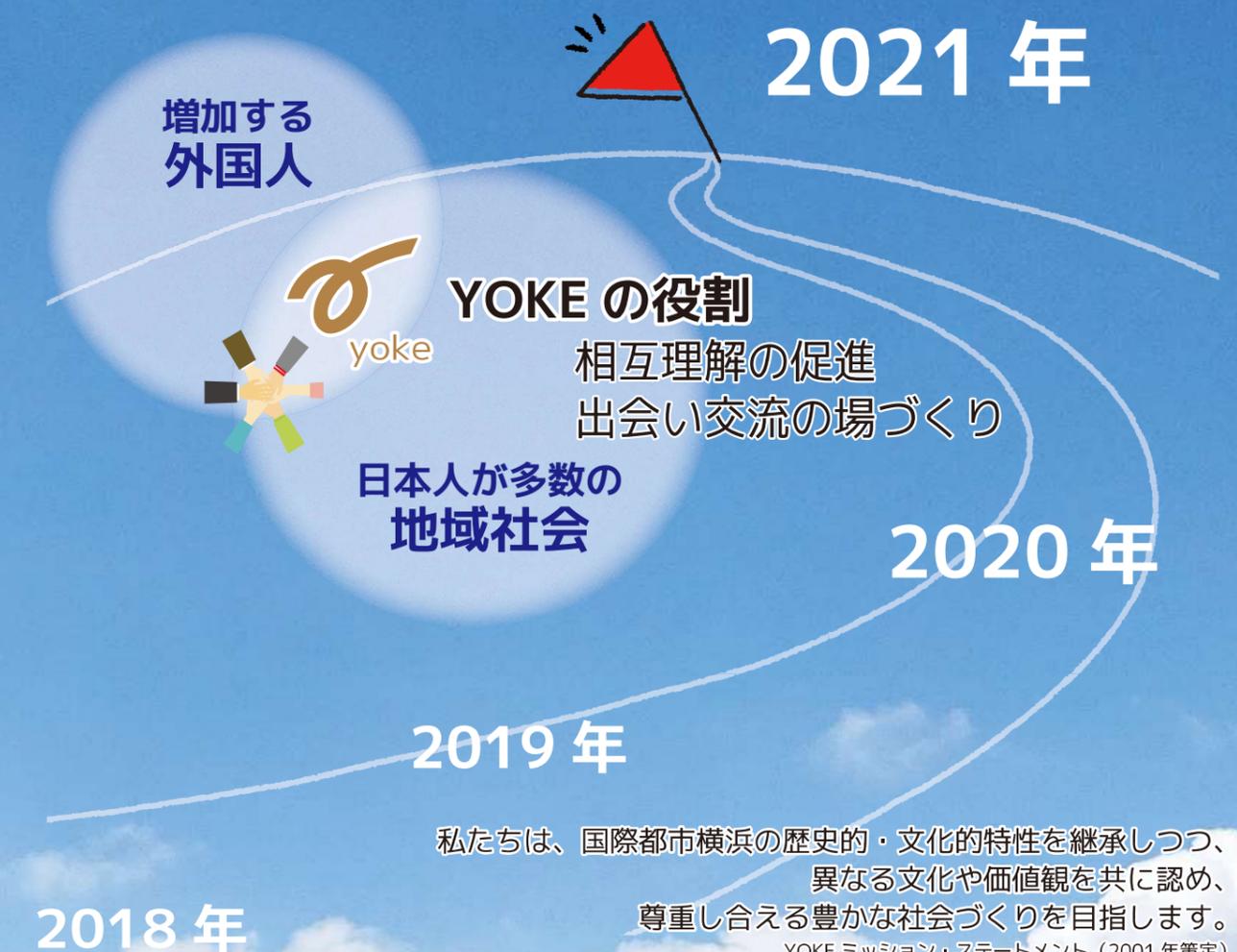


YOKE は持続可能な開発目標 (SDGs) に賛同しています。

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル (普遍的) なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。参考：外務省ホームページ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

## YOKE が描く「2021 年の横浜のイメージ」

<p>自治会・町内会や学校行事で外国人が活動に関わる機会が多くなってきている。</p>	<p>日本人と外国人住民交流が盛んになり日常の接点も多くなってきている。</p>	<p>定住している外国人が新たにきた外国人を地域に受入れるサポートを担っている。</p>
<p>留学生の国内就職が増え横浜での就職の機会が広がっている。</p>	<p>学校で外国人の関りが増え児童生徒の多文化理解・国際理解が広がっている。</p>	<p>グローバル人材育成により誰もが安心して豊かに暮らす世界を目指す若者が増えている。</p>



私たちは、国際都市横浜の歴史的・文化的特性を継承しつつ、異なる文化や価値観を共に認め、尊重し合える豊かな社会づくりを目指します。

YOKE ミッション・ステートメント (2001 年策定)

## 公益財団法人横浜市国際交流協会設立の目的

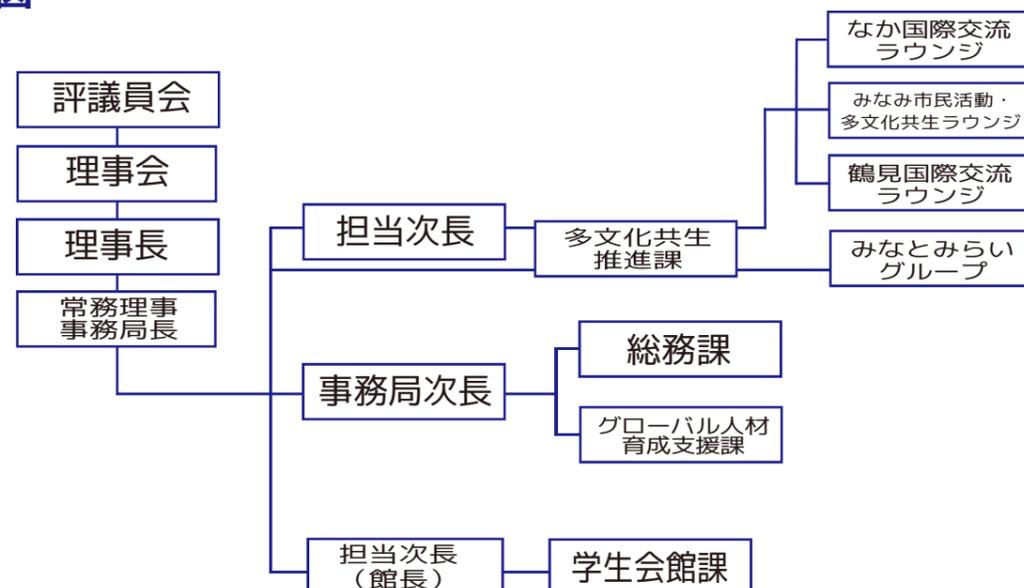
(定款第3条)

この法人は、横浜の国際都市としての歴史的・文化的特性を継承しつつ、その一層の発展に向けて、異なる文化や価値観を共に認め、尊重し合える豊かな社会づくり、国際交流・国際協力の促進を図ることを目的とする。

## 公益財団法人横浜市国際交流協会について

理事長	小野崎 信之
所在地	神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階
沿革	昭和56(1981)年7月8日 任意団体「横浜市海外交流協会」として設立
	昭和57(1982)年12月28日 財団法人認可
	平成5(1993)年3月20日 特定公益増進法人認定
	平成11(1999)年4月1日 「国際交流協会」に名称変更
	平成16(2004)年6月13日 中区山下町 産業貿易センターから現住所に事務所移転
	平成22(2010)年11月1日 公益財団法人へ移行登記
基本財産	476,943,972円

## 組織図



## ごあいさつ

2020年7月より理事長に就任した小野崎信之です。よろしくお願い致します。

私ども公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)は、横浜市における国際交流及び国際協力、多文化共生の促進という使命を担い、1981年の設立以来、様々な社会情勢の変化に対応し、事業や組織の改革を行ってまいりました。

最近では、2019年に、市内ですすむ外国人人口の増加や、出入国管理・難民認定法の改正を背景に、11言語に対応する横浜市多文化共生総合相談センターを設置しました。

また、2020年には、新型コロナウイルスの拡がり、生活環境や経済活動に多大な影響をもたらしたことから、多言語でのきめ細かな情報提供をはじめ、電話・メールでの相談、IT機器を活用した事業のオンライン化等の対応を行いました。

今後も、YOKEは、日本人と外国人とが異なる文化や価値観を共に認め尊重し合える豊かな社会づくりとともに、言語などの壁を越えて誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指し、職員一丸となって諸事業に取り組んでまいりますので、関係する団体、機関、企業、ボランティアなどの皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

2020年7月

公益財団法人 横浜市国際交流協会 理事長 小野崎 信之

署名

写真

## 「YOKE」の愛称について

「YOKE」とは、協会に英文名の中から YOKOHAMA の「YOK」と EXCHANGE の「E」を合成してつけた愛称です。横浜市と世界との「きずな」を強くしているという気持ちで、「ヨーク」と呼んでください。

## シンボルマークの意味



「YOKE」のシンボルマークは英語の C にあたるギリシャ文字γ(ガンマ)が原型となっており、Cはコミュニケーション、また、γは横浜の頭文字 Y にも通じ、横浜と世界の情報の円滑な流れ、そして緊密かつ、積極的な相互交流の推進の希いを表しています。なお、シンボルカラーは、セピア色(DIC337)と決定し、当協会の広報・諸事業の際に使用しています。(1982年1月制定)

## YOKE みなとみらい事務所

電話番号 045-222-1171 (代表)

FAX 番号 045-222-1187

対応時間 平日 8:45 ~ 17:30

休日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始



みなとみらい線「みなとみらい駅」下車徒歩5分  
JR・市営地下鉄「桜木町駅」下車徒歩15分

## 横浜市多文化共生総合相談センター

電話番号 045-222-1209

FAX 番号 045-222-1187

対応時間 平日 10:00 ~ 17:00 (受付 16:30)

第2・4土曜日 10:00 ~ 13:00 (受付 12:30)

対応言語 日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、タイ語  
※土曜日の電話対応は、日本語、英語、中国語、スペイン語のみ

休日 第1・3・5土曜日、日曜日、祝日、年末年始

## 寄付のお願い

多文化共生のまちづくりのための寄付のご協力をお願いいたします。(1,000円/1口 金額自由)

郵便振替口座

口座番号 00250-3-74434

加入者名 公益財団法人 横浜市国際交流協会

横浜市多文化共生総合相談センターの運営

11言語による多言語相談窓口を設置し、横浜で暮らす外国人等からの生活相談に対応しています。また、専門家による無料相談を実施するほか市内各行政機関、専門機関等とも連携し、必要に応じて適切な機関等を案内しています。  
国際交流・ボランティア活動・外国人支援などの多文化共生に関する市民活動についても、情報提供・相談を行うと共に、多文化共生に関する市民や団体等からの様々なご相談にも対応しています。横浜市が発行する、戸籍謄・抄本と住民票の英語訳も行っています。

この事業で行っている内容

- 多言語による生活相談・情報提供
- ・通訳付き無料専門相談の実施  
(行政書士相談・教育相談・法律相談)
- ・多文化共生に関する相談への対応
- ・戸籍/住民票の翻訳(有料)

横浜市多文化共生総合相談センターは、横浜市からの委託により運営しています。



センター入口



タブレットを用いての相談



相談員と対面で相談

国際交流ラウンジ等と連携し、横浜市域の多文化共生を推進しています

横浜市内には 10 の国際交流ラウンジが設置されており、外国人等に対する多言語による情報提供や相談対応をはじめ、情報収集、人材育成、交流事業、日本語教室等を実施しています。また、国際交流ラウンジの活動には、多くの市民ボランティアが関わっています。  
YOKE は「横浜市国際交流ラウンジの設置及び運営に関する指針」に基づき、国際交流ラウンジ協議会事務局として、市内国際交流ラウンジ等のネットワークによる情報共有や意見交換などを通じて、多文化共生のまちづくりを推進しています。

<横浜市内の国際交流ラウンジ>  
青葉国際交流ラウンジ、いずみ多文化共生コーナー、金沢国際交流ラウンジ、港南国際交流ラウンジ、港北国際交流ラウンジ、都筑多文化・青少年交流プラザ、鶴見国際交流ラウンジ、なか国際交流ラウンジ、ほどがや国際交流ラウンジ、みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

この事業で行っている内容

- ・国際交流ラウンジ協議会事務局の運営
- ・協議会連絡会、テーマ別分科会  
(窓口、通訳派遣、日本語、学習支援)の実施
- ・合同研修会の実施  
など



国際交流ラウンジ協議会連絡会



合同研修会



窓口分科会での視察

2020 年度新規事業

地

この事業で行っている内容

日本語学習支援の充実を通じた、外国人の生活基盤の充実と多文化共生のまちづくり

日本語学習を通じて、外国人の多様なニーズ(日本語学習・生活)が満たされ、社会参加・自己実現ができるよう日本語を学ぶ場を設けるとともに、市域での日本語学習支援の充実を目指し、教室情報の収集・提供や関係者間との連携を行います。また、地域での外国人と日本人のコミュニケーションの促進を図ります。

この事業で行っている内容

- ・日本語教室の運営
- ・日本語・学習支援 教室データベース(横浜)の運営
- ・日本語ボランティア研修会
- ・まちの日本語伴走隊(団体への個別訪問事業)
- ・就学前の子どもと親の支援(子育て支援・親子教室)  
など



YOKE 日本語教室



日本語ボランティア研修会



「おやこにほんごタイム」活動ネタ集

## 多言語情報発信で在住外国人のみなさんが生活しやすい環境づくり

### 多言語情報発信事業

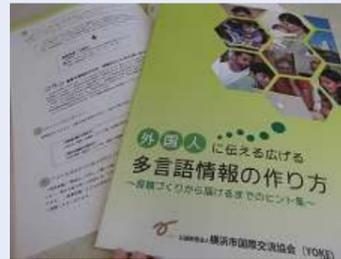
横浜市からの情報提供と市民ボランティアの協力により、外国人に必要な情報を 10 言語で発信し、生活に必要な情報を多言語で提供します。外国人のみなさんにもわかりやすい情報提供の方法を協力者とともに周知し、「やさしい日本語」の活用を推進します。また、生活に有益な情報等の翻訳「YOKE 翻訳」及び、外国人向けの情報提供についてアドバイスや相談に対応します。

#### この事業で行っている内容

- ・多言語情報発信「よこはま yokohama」(10 言語) 発信
- ・標準訳語集の改定と公開
- ・「やさしい日本語」の周知
- ・多言語の情報作成方法の周知と相談対応
- ・多言語による情報翻訳「YOKE 翻訳」(有料)



多言語による情報翻訳 (イメージ)



多言語情報の作り方冊子



多言語情報発信よこはま yokohama

## 日本語が不自由な外国人等の言葉のサポート

市内 8 カ所の国際交流ラウンジ等と共同実施している「横浜市通訳ボランティア派遣事業」では、日本語でのコミュニケーションが困難な外国人等が横浜市の公共窓口等を利用する際にボランティアの通訳者を無料で派遣し、手続き等をサポートすると共に行政窓口等業務への支援を行っています。また、専門通訳ボランティアを育成し、特に専門的な知識が必要な機関への派遣を実施しています。

#### この事業で行っている内容

##### 主な派遣先

横浜市立小中学校、区役所、保育所、療育センターなど

##### 主な派遣内容

教員と外国人保護者との面談、区役所での手続き、乳幼児健診など

##### 主な派遣言語

中国語、英語、スペイン語、タガログ語、ベトナム語など



区役所窓口での通訳の様子



通訳ボランティア研修会



専門通訳研修会

### 外国につながる子ども・若者支援事業

## 子どもたちが学校や地域社会で自分の居場所を見出し、将来の展望を持てるように

外国人の定住化が進み、外国につながる子どもも今後ますます増加していきます。子どもたちの育ちから社会的な自立に至るまでを視野に、生活の質が高まるよう、ライフステージに応じた必要なサポートの実施を目指します。関連機関等と連携し、また、情報提供、学習支援教室の活動や外国人とのコミュニケーションに対する個別訪問を他事業と連携して取り組みます。

#### この事業で行っている内容

- ・学習支援ボランティア向け研修会の実施
- ・市内学習支援教室等との連絡会の開催
- ・「みんなどうしてる? 外国につながる子どもの学習支援教室 活動ヒント集」公開
- ・情報収集、情報提供

(注1)「外国につながる子ども・若者」について  
ここでは、国籍は日本でありながら、両親の両方又はどちらかが外国籍である人等、本人の国籍を問わず、様々な形で外国につながる子どもたち・若者たちを総称して使用しています。



学習支援ボランティア研修会



学習支援情報交換会



みんなどうしてる? 外国につながる子どもの学習支援教室 活動ヒント集

### 多言語サポーター派遣・紹介事業

## 外国人介護人材の定着定住に向けた生活のサポート

横浜市で働く外国人介護職員を対象に、母語による生活相談の実施や定着定住にむけた仲間づくりを支援するなど、市内で安心して生活し、働くことができるよう生活全般をサポートします。

#### この事業で行う内容 (予定)

- ・生活に関わるガイダンスと相談対応
- ・外国人の生活相談窓口の案内
- ・施設訪問による相談対応と情報提供
- ・市内イベント情報等の周知
- ・外国人介護人材向け情報ウェブサイトの開設

#### 2020 年度新規事業



生活ガイダンス



相談対応と情報提供 (イメージ)



市内イベント情報等の周知 (イメージ)

YOKE の情報や多文化共生に関する情報提供により市民の活動を応援します

国際交流情報提供事業

YOKE の事業や多文化共生に関する情報、外国人のみなさんの生活に必要な情報を各媒体（広報紙、ホームページ、Facebook ページ等）を通して提供し、市民の多文化共生への取組を支援します。  
また、行政や団体が企画する多文化共生に関する研修・イベントの広報支援を行います。

この事業で行っている内容

- ・広報紙ヨークピア発行
- ・ホームページの運営
- ・YOKE Facebook ページの運営
- ・横浜国際交流イベント情報（Facebook ページグループ）の運営
- ・横浜市で多文化共生に関する活動を行う団体の紹介



ヨークピア



YOKE ホームページ



YOKE Facebook ページ

地域の多文化共生の拠点 多言語対応で外国人住民をサポート

国際交流ラウンジ運営事業

なか国際交流ラウンジ  
みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ  
鶴見国際交流ラウンジ

市内で外国人登録者数が多い3区—中区(1位)、鶴見区(2位)、南区(3位)から委託を受け、日本人と外国人がともに暮らす多文化共生のまちづくりに向け、国際交流ラウンジの運営を行っています。

この事業で行っている内容

- ・多言語での生活情報提供
- ・多言語での生活相談
- ・日本語学習支援（日本語教室・ボランティア講座など）
- ・外国につながる子どもたちの学習支援や若者の人材育成
- ・交流イベント
- ・通訳・翻訳ボランティアの派遣や紹介
- ・地域での多文化共生を進めるための取組など



なか国際交流ラウンジ  
多言語での生活相談



みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ  
外国人のための生活ガイダンス



鶴見国際交流ラウンジ多文化共生フェスタ

いざそのとき、外国人が「災害弱者」とならないために

外国人の災害時対応事業

主に地震災害における外国人住民への情報提供など、外国人支援に向けた事業を行います。  
横浜市との「外国人震災時情報センター設置・運営に関する協定」に基づき、関係機関やボランティアとの協力体制の充実を図ると同時に、外国人や地域住民の意識啓発活動を行います。  
また近年頻発している風水害に係るの外国人への支援内容、情報提供の充実を目指します。

この事業で行っている内容

- ・横浜市外国人震災時情報センターの設置・運営に向けた準備・訓練
- ・震災時語学ボランティアの登録、研修
- ・防災意識の啓発（防災訓練、研修会、イベントへの出展等）
- ・国際交流協会間の連携等、外国人支援ネットワークの構築
- ・地域等からの相談・ヒアリング対応等



横浜市外国人震災時情報センター  
設置運営訓練



便利ツール紹介カード



横浜市総合防災訓練

「誰もが安心して豊かに暮らすことができる世界」を目指す人材の育成

地球市民プログラム事業

横浜国際協力センター内の国際機関と YOKE が取り組む食料、地球環境・都市問題・多文化共生のまちづくり等を青少年が学び、地球市民の一員として課題解決に向けて自分たちにできることから行動していくことを応援するプログラムを実施します。語学講座では、市民が異文化理解、外国語によるコミュニケーション力、グローバルな視野などの向上を図る機会を提供していきます。

この事業で行っている内容

- ・ たずねよう！横浜国際協力センター
- ・ 出前講座、カスタマイズ講座
- ・ 国際機関及び YOKE での実務体験プログラム
- ・ 語学講座（英語・スペイン語）
- ・ 地球市民講座



「たずねよう！横浜国際協力センター」国際機関や YOKE の取組を学ぶ小学生児童



「国際機関実務体験プログラム」外国につながる子ども達の学習支援をする実習生



語学講座

様々な団体がイベントを通じて連携強化し横浜の国際協力・多文化共生を推進する枠組み

横浜で国際協力・交流・多文化共生に取り組む NGO/NPO・国際機関・行政・学校・企業など様々な立場の団体が イベントを通じて互いに連携を強化し関係団体間の連携・ネットワークを継続的に推進する枠組み「よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会（よこはま C プラット）」ー YOKE はその一員として、様々な事業に取り組んでいます。

< 運営委員会 構成団体 >  
横浜国際交流協会 (YOKE) / 横浜市国際局 / JICA 横浜 / (特活) 横浜 NGO ネットワーク / 神奈川大学

この事業で行っている内容

- ・ よこはま国際フェスタ（会場全体の運営、YOKE ブースの実施）
- ・ よこはま国際フォーラム（会場全体の運営、YOKE 講座の実施）
- ・ SDGs（持続可能な開発目標）推進事業（SDGs よこはまリンク）



よこはま国際フェスタ 2018



YOKE 講座「自分たちに何ができるか」～学校や地域で行動する子どもたちの姿～



SDGs 推進事業での活動の様子

国際協力・交流プラットフォーム事業

横浜国際協力センター運営事業

横浜国際協力センターの管理運営と国際機関・団体の活動支援

横浜国際協力センターは、横浜市が世界の平和と発展に貢献するため、環境・食料・都市問題など地球規模の課題解決に取り組む国際機関の活動拠点として、1986年にみなとみらい地区に設置した施設です。YOKEでは、施設の営繕の推進、入居機関・団体（7種・YOKEを含む）の支援・連携促進、各機関・団体が主催するイベントや訪問者・見学者の受入れに対応しています。また、入居機関・団体と連携協力し、入居者が快適に活動できる環境づくりを推進しています。

この事業で行っている内容

- ・ 施設の営繕の推進
- ・ 施設内会議室の管理
- ・ 入居機関・団体の支援
- ・ 各機関が団体が開催するイベントや訪問者・見学者の受入れ対応
- ・ 防災訓練の実施
- ・ 各機関・団体との定期連絡会の開催



横浜国際協力センターのあるパシフィコ横浜の全景



横浜国際協力センター防災訓練



横浜市国際協力センター2階エントランス「国際交流の木」

私たちは、横浜と世界をつなぐ心のかけ橋をつくります

横浜市が設立した外国人留学生・研究者等のための宿泊施設で、YOKEが指定管理者として管理・運営しています。2019年5月に創立25周年を迎え、これまでに86か国・地域から1,900人を超える学生たちを受け入れてきました。

- ・ 地域貢献事業  
防災訓練等の災害対策、地域イベントへの参画 / 参加
- ・ 留学生支援事業  
日本語ボランティア家庭教師の紹介、留学生のための就職セミナー等
- ・ 行政施策への協力
- ・ 広報事業  
ニュースレター「よこはま地球村」の発行、HPでの情報発信等

この事業で行っている内容

- ・ 国際理解事業  
留学生による出前授業、語学 / 文化講座、研究発表会・交流会、ホームビジット事業

横浜市国際学生生活館運営事業



2019年入居者歓迎会



潮田神社祭礼で神輿担ぎ



留学生を囲む英会話サロン